

大運河観光を彩る流域の歴史的都市 中国六大古都に名を連ねる南京・洛陽・開封



中華門
東西118.5メートル、南北128メートル、高さ20.45メートルという巨大な中華門は、巧みな設計と堅牢な美しさが見る者を圧倒します



開封府城
清代に修復された開封府城は、北京と南京に次ぐ大都市として君臨した往時の繁栄を偲ばせます



龍門石窟
龍門石窟は北魏時代と唐代に切り開かれましたが、最大のみどころは、唐代に造営された奉先寺石窟です



漢兵馬俑
徐州で1980年代に発見された漢兵馬俑。一体50センチほどの小さなものですが、前漢初期の実戦軍隊の生き写しです

開江楼
14世紀に建設が中断され、600年の時を経て2001年に建造された7層の「開江楼」。明朝の風格を再現した鮮やかな色彩が印象的な楼閣は、南京の新たな観光名所です

唐時代に築かれたものが拡張されており、現在も3分の2以上が残されています。これだけの規模の城壁が現存しているのは、中国国内でも極めて珍しく、一見の価値があります。

明代には、城壁に沿って13の城門が築かれ、今も残されている5つの城門のうち、造られた当時の姿をそのままとどめる中華門が、南京を代表する見所となっています。

現在も3分の2以上が残る城壁

長江の東に接する南京は江蘇省の省都で、その歴史は2500年前の春秋時代にさかのぼります。14世紀に完成した街を取り囲む城壁は、南

往時の歴史を今に伝え、大運河観光を彩る存在ともなっています。

大運河の流域に位置する南京、洛陽、開封といった都市は、何れも中国六大古都に名前を連ね、いくつもの王朝が都を定めたことから、数多くの城址や墳墓、大規模な博物館などが

遠大な歴史の流れも映し出す

春秋時代から隋唐の時代にかけて造営された大運河は、中国大陸の東部沿岸部を南北に貫く物流の大動脈としての役割を果たすと同時に、中国の遠大な歴史の流れも映し出してきました。



中山陵
「中国革命の父」と呼ばれる孫文が眠る中山陵(南京)。陵の広さは約8万平方メートルに及びます



南京博物院
北京の「故宮博物院」と並ぶ格式の「南京博物院」。日中戦争の戦火を避けるため、北京から大量の収蔵品が運び込まれており、「南遷文物」として異彩を放っています



高郵孟城駅
江蘇省北西部の高郵市には、元から明にかけて郵便が馬で運ばれていた時代の郵便駅が残されています



清明上河園
宋の名画「清明上河図」に描かれた風物を再現し、宋代の民俗風情を集めたテーマパーク「清明上河園」(開封)

中国屈指の5000年に及ぶ古都

河南省西部で黄河の中流に位置する洛陽は、西安と並ぶ中国屈指の古都として知られ、その歴史は5000年に及びます。中華文明の発祥地の一つでもある洛陽には夏・商・周・漢魏・隋唐代の都の遺跡が残されていることから、「五都会洛」の異名も持つほどです。

洛陽市の南12キロにある龍門石窟は、敦煌の莫高窟、大同の雲岡石窟と並び中国三大石窟の一つに数えられています。仏教を重んじた北魏の皇帝らが盛んに仏教建築の造営を進め、龍門石窟はその中でも最も有名なもので、2000年には世界遺産に登録されました。

洛陽と同じ河南省の都市・開封は、春秋時代から13世紀の金の時代まで約2000年の間に七つの王朝で都となり、現在、門楼は失われているものの、煉瓦積みみの城壁は残されていて、低い平屋の古風な町並みが古都の趣きを感じさせます。